

**VOL.40** 2018 AUTUMN



2018年3月に退任され同4月から副学長に就任された北村教授（本文にご挨拶を掲載）

## 第11期新会長挨拶、定期総会報告

第11期会長 栗飯原 功一（1985年卒）



栗飯原新会長(左)と山崎前会長

本年(2018年)、野田建築会は発足以来20周年を迎えました。卒業生の皆様には、日頃より野田建築会へのご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。併せて、今までこの会にご尽力された歴代会長ならびに役員の方々に深く感謝いたします。

野田建築会は一昨年より理窓会関連団体に正式加入し、大学内における同窓交流の場を広げています。会員数は6,500名を超え、理科大内でも上位の会員数を誇るOB・OG会となっています。

活動内容は、年2回の会報発行(春秋)やメルマガにて同窓や大学の近況を広く発信し、キャリア支援セミナー(OBと語る会)や建築見学会の開催、NAA賞の授与等を通じて学生との交流の場を図ってきました。

本会の目的である「会員の親睦をはかり、会員の研鑽を相互に支援して、建築文化の発展に寄与する」ために、本会活動の継続と更なる拡充が必須であり、若手を含めたOB・OGの加入を強化していきたいとおもいます。研究室OB会や企業OB会からの繋がり、また、近年は建築学科の女子在籍率も高まっていますので積極的なOG参加もお願いします。

本年秋(11/24)には、野田キャンパスにて野田建築会20周年記念イベントを企画していますので、同窓の皆様の積極的な参加を期待します。20周年を契機に今後も一層の学生

支援活動等を通じて、野田建築会が大学に貢献できるよう尽力する所存ですので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

なお、活動継続にあたっては、より多くの会費納入者が必要ですので、皆様のご理解をお願いします。

以下、野田建築会第11回定期総会が、2018年6月2日、会員数6557名のうち156名の出席者(委任状含)のもと、滞りなく終了したことを報告いたします。総会議案は末尾の通りで、各部会の主な報告内容は下記のとおりです。

事業部会では、OB・OGによるキャリアセミナーや建築見学会等の開催・NAA賞授与など、学生との活発な交流を継続しています。

会報部会では、年2回春秋の会報発行にて、OB・OGや先生、在学生の近況を卒業生の皆さまに広く提供しています。

名簿部会では、卒業生の名簿更新をしており、同窓会開催等の要望に対しての情報提供も行っています。

情報部会では、NAAサイトの運営、月2回のメルマガ発行を行っています。理窓会や築理会へのリンク拡充もしました。

50周年事業関連部会からは、2017年10月29日の大同窓会に向けて、記念誌発行や記念デザインコンペを開催、当日は、三分一博士氏記念講演や企業OB・OGパネル展、夕方の懇親会には歴代の教授も来場され総勢320名もの参加があった等、成功裡の報告がありました。

### 栗飯原 功一 略歴

1963年 千葉県佐倉市生まれ  
 1985年 東京理科大学工学部建築学科卒業(井口道雄研究室)  
 1985年 (株)竹中工務店入社後、主に施工管理を担当  
 2013年 葛飾キャンパス図書館棟担当(作業所長)  
 現在 東関東支店 作業所長  
 2016年より工学部建築学科建築施工非常勤を担当



総会後の懇親会の様子

## 野田建築会第11回定期総会報告

第11回定期総会は2018年6月2日(土)、総会成立要件:総会員(6,557名)の1/60(110名)を満たす参加者156名(出席者20名、委任状136名)を以って、午後5時30分より東京理科大学神楽坂校舎ポルタ神楽坂7階第2会議室にて開催され、次の議案について審議され承認されました。

- 第1号議案: 事業部会2016年度、2017年度の活動報告および2018年度、2019年度の活動計画(案)
- 第2号議案: 会報部会2016年度、2017年度の活動報告および2018年度、2019年度の活動計画(案)
- 第3号議案: 名簿部会2016年度、2017年度の活動報告および2018年度、2019年度の活動計画(案)
- 第4号議案: 情報部会2016年度、2017年度の活動報告および2018年度、2019年度の活動計画(案)
- 第5号議案: 50周年事業関連部会2016年度、2017年度の活動報告(今期にて終了)
- 第6号議案: 野田建築会会則改正の件
- 第7号議案: 会計および監査  
2016年度、2017年度の会計報告・監査報告および2018年度、2019年度の前算(案)
- 第8号議案: 任期満了に伴う役員改選について



第6号議案(抜粋): 会則全文は野田建築会ホームページをご確認ください。

改正前	改正後
<b>第2章 会員</b> 第5条 (義務・権利) 普通会員は、毎年会費を納入する。会費を納入した普通会員は、本会の定める当年度の会員としての権利を得る。	第2章 会員 第5条 (義務・権利) 普通会員は会費を納入する。会費を納入した普通会員ならびに特別会員は、本会の活動への参加、情報・意見の授受の権利を得る。
<b>第5章 役員等</b> 第15条 (組織) 本会は、役員会、事務局を置く。 役員は、会長、副会長、事務局長、会計、監査役とする。 役員は、定期総会にて承認を受けなければならない。	第5章 役員等 第15条 (組織) (1) 本会は、役員会、事務局を置く。 (2) 役員は、会長、副会長、事務局長、会計、監査役ならびに顧問とする。 (3) 役員は、会費を納めた普通会員の中から選出し、総会にて承認を受けなければならない。
第16条 (会長、副会長) <略> (3) 会長・副会長は、定期総会において普通会員の中から選出する。その任期は2年とする。但し、承認があれば1回に限り再任できる。	第16条 (会長、副会長、顧問) <略> (3) 会長・副会長の任期は2年とする。但し、会長は承認があれば1回に限り再選できる。副会長の再選は妨げない。 (4) 顧問は、会長または副会長経験者とし、本会の補佐、運営に関する助言をする。
<b>第9章 寄付</b> 第29条 (寄付) 本会への寄付金は、役員会を経て会長が預かり、総会時に報告した時点で享受し、有効な用途を含めて各会員に情報を伝達しなければならない。	第9章 寄付 第29条 (寄付) 本会への寄付金は、役員会を経て受取り、本会の運営に充当する。また、寄付金の授受は会員に報告しなければならない。
<b>【運営細則】</b> <略> (3) この細則は、2012年5月26日から施行する。	<b>【運営細則】</b> <略> (3) 本会の所在地は会計の住所地とする。
	<b>【附則】</b> (2010年5月29日改正) この会則は2010年5月29日から施行する。 (2012年5月26日改正) この会則は2012年5月26日から施行する。 (2016年5月28日改正) この会則は2016年5月28日から施行する。 (2018年6月2日改正) この会則は2018年6月2日から施行する。

### 第7号議案(抜粋)

<決算>

項目	決算	
	2016年 (平成28年度)	2017年 (平成29年度)
<b>1. 収入</b>		
年会費	864,000	774,000
寄付	133,003	151,640
年会費二重払い分	147,000	114,000
総会・懇親会費	66,000	0
利息	7	17
合計	1,210,010	1,039,657
<b>2. 支出</b>		
名簿部会(事務費)	8,054	0
情報部会(メルマガ、HP管理費)	121,224	121,224
会報部会(会報作成・発行費)	398,770	551,003
事業部会(NAA副賞、懇親会費)	65,686	98,905
理工学部50周年事業関連費用	0	45,400
会計(事務費、振込費等)	231,160	9,344
合計	824,894	825,876
<b>3. 収支</b>		
収入	1,210,010	1,039,657
支出	824,894	825,876
収支	385,116	213,781

### 第8号議案(役員改選)

2018～2019年度(20名)

<役員>

会長 粟飯原功一(S60卒)  
 副会長 涌井栄治(S60卒)、高安重一(H01卒)、鳥山暁子(H13卒)  
 事務局長 五十嵐洋也(S53卒)  
 会計 八田直人(S55卒)、白岩和浩(S60卒)  
 監査役 立見栄司(S45卒)、熊井和雄(S54卒)  
 顧問 山崎晃弘(S51卒)

<予算>

項目	予算	
	2018年 (平成30年度)	2019年 (平成31年度)
<b>1. 収入</b>		
年会費	840,000	840,000
寄付	100,000	100,000
広告収入	308,000	250,000
合計	1,248,000	1,190,000
<b>2. 支出</b>		
名簿部会	10,000	10,000
情報部会	121,224	121,224
会報部会	889,500	889,500
事業部会	100,000	100,000
NAA20周年事業関連費用	50,000	0
会計	20,000	20,000
予備費	20,000	20,000
合計	1,210,724	1,160,724
<b>3. 収支</b>		
収入	1,248,000	1,190,000
支出	1,210,724	1,160,724
収支	37,276	29,276
前期繰越金	2,515,873	2,553,149
次期繰越金	2,553,149	2,582,425

<常任幹事> ※印は部会長を示す。

事業部会 五十嵐洋也(兼任)※、鈴木雅也(S57卒)、出塚哲也(S59卒)、菱崎嘉昭(S62卒)、星合善文(S63卒)、野原聰哲(S63卒)、佐久間達也(H05卒)、秋山貴洋(H10卒)  
 会報部会 鳥山暁子(兼任)※、大野芳俊(S63卒)、粟飯原功一(兼任)、涌井栄治(兼任)  
 名簿部会 涌井栄治(兼任)※、小長谷哲史(H15卒)  
 情報部会 高安重一(兼任)※、児玉雅美(H13卒)

以上

東京理科大学での 17 年間の研究を振り返って

北村 春幸 副学長



北村 春幸 略歴

1974年 神戸大学 工学部 建築学科 卒業  
 1976年 神戸大学 工学研究科 建築学専攻 修士課程 修了  
 1976-2001年 日建設計建築構造設計に従事  
 2001-2018年 東京理科大学 教授  
 2006-2009年 西安交通大学 客員教授  
 2007-2009年 京都大学 客員教授  
 研究分野 建築構造・材料 (建築構造設計、耐震構造、免震構造、制振構造)

1976年3月に神戸大学の堯天・水畑研究室で修士課程を終え、日建設計の構造設計部に入社した。日建設計では、超高層建物や免震構造・制振構造の設計など、動的応答評価を必要とする建築物の設計を主に担当してきた。構造設計に加えて、入力地震動評価、動的解析手法、免震・制振構造の設計法などを研究し、その成果を論文にして積極的に公表してきた。

建物の設計実績があること、博士の学位を取得していること、設計者としては多くの査読論文を投稿していることなどが評価され、2001年4月に本学の教授に就任した。理工学部建築学科から期待されたことは、設計経験と設計実務を学生に教えることであった。

授業は、【鉄骨構造(3年生)】、免震・制振構造の設計を講義する【構造特論(4年生)】、鉄骨構造の詳細図をトレースする【設

計製図3(3年生)】、小規模の鋼構造事務所の構造計算書と構造図を作成する【構造設計製図(4年生)】、オムニバス形式で10人の構造設計者から設計作品をもとに構造設計の解説をしてもらう【特別講義“建築と技術”(3,4年生)】、エネルギーの釣合に基づく応答評価法を講義する【建築耐震設計特論(大学院)】、建築構造物のモデル化や振動解析手法を講義する【建築構造設計特論及び演習(大学院)】を担当した。

構造設計者は、建物が負担すべき荷重や動的な外乱を設定(入力の設定)し、それらにより構造骨組に生じる応力・変位を解析により求め(応答評価)、入力レベルに対応した性能を設定して、応力・変位が性能評価基準値を満たすことを検証(性能評価)する。入力レベルの設定にあたっては、「自然環境」、特に「地震環境」の評価が重要になる。性能評価基準を設定するには、入力レベルに加えて「社会が建築物に求めている性能」を把握することが重要になる。構造設計は「自然環境」に影響を受けるが、「社会の要求」にも配慮する必要がある、それらを含めた「総合的な判断」が求められる。構造設計における「入力設定」「応答評価」「性能評価」の3つの設計行為を「総合評価」することが構造設計であると考えている。

教育研究にあたっては、構造形式が耐震構造、免震構造、制振構造と変わっても、一環性のある「総合評価」手法を提案することを目指した。研究テーマを「入力設定」「応答評価」「性能評価」と「総合評価」に分類すると、図1のように表される。

学生達には積極的に査読論文に投稿するように指導を心掛け、教育研究を行ってきました。おかげさまで、17年間で192名の4年生・111名の修士学生諸君と160編を超える査読論文に投稿し、700編以上の梗概発表が行えました。4月からは、副学長として理科大のために、もう一仕事したいと考えています。さらに、建築界にも、引き続き、関係を持ち続け、少しでも貢献できればと思っています。

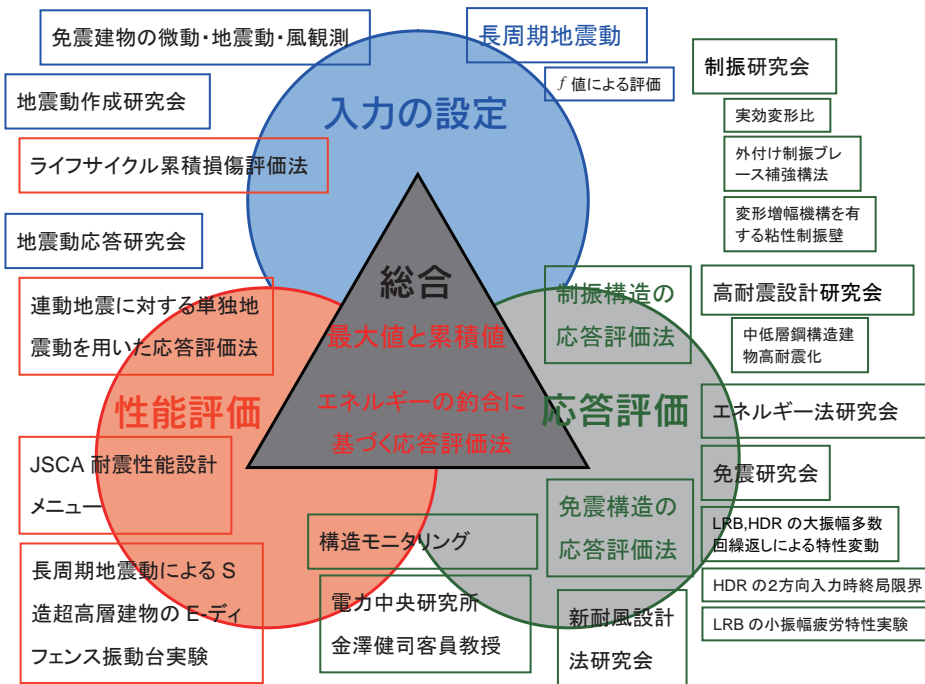


図1 構造設計における3要素と研究分野と研究会の相関図



## 北村先生最終講義・祝賀会の報告

松田 頼征 助教

北村春幸教授の2018年3月末の定年退職に伴い、最終講義が同年3月9日に東京理科大学神楽坂キャンパス1号館17階大会議室にて行われました。参加者の多くはゼネコン・設計事務所・デバイスメーカーなどの最前線で活躍されている方々で、長年耐震工学に従事してきた北村教授の活動の濃密さと広さ、および多くの学生を社会に輩出した情熱が表れていました。講義は「構造設計を総合する研究を目指してー東京理科大学での17年間の研究を振り返ってー」というタイトルで、北村先生の研究テーマが構造設計における3つの要素（入力の設定、性能評価、応答評価）とそれらの総合評価に基づいていることと、学生と共同研究者とで作り上げた17年分の研究成果の一端をお話いただきました。講義終了後には、講義内で紹介された研究に携わっていたOBと共同研究者が当時を振り返って談笑していました。

引き続き、場所をホテルメトロポリタンエドモンドに移して祝賀会が開催されました。まず北村研一期生の渡邊義隆氏（前田建設工業）に開会の挨拶、常木康弘氏（日建設計取締役常務執行役員）に乾杯のご発声をしていただき、歓談に移りました。

会場は和やかな雰囲気に包まれ、北村先生は参加者にご歓談・写真撮影をされていました。その後永野正行教授（本学）と小林正人教授（明治大学）にご祝辞を頂き、北村先生にご家族に記念品と花束が贈呈されました。また、北村先生の研究費とお祝い金を優秀な成績を修めた構造系学生を讃える基金（北村春幸賞）にあてることが決まりました。ある人が「なるほど、北村先生らしいな。」と感慨深くつぶやいていたのが、とても印象的でした。最後に北村先生から参加者にご家族に感謝の言葉と4月から副学長としての新たなスタートをきる意欲が述べられ、割れんばかりの拍手と共に閉会しました。

### 松田 頼征 略歴

2016年3月 東京工業大学博士課程修了  
2016年4月～2018年3月 東京理科大学北村研助教  
2018年4月～ 同学衣笠研究室助教



祝賀会での集合写真

## キャリア支援セミナーについて

理工学部建築学科主任教授 岩岡 竜夫

理工学部建築学科では、2013 年後期（9 月下旬）より、理工学部全学生を対象として、理工学部 10 学科から各 3 名の東京理科大学 OB・OG の方々に講義を依頼し、オムニバス形式で 1 コマ 90 分の「理工学部キャリア支援セミナー特別講義」を開催しています。

建築学科では、学科の 1 年生向けの専門必修科目である「建築学入門」の中の 3 コマ分を当てることで、入学直後の学生全員に対して、OB・OG の方々から卒業後（あるいは修了後）の進路や現在の仕事の内容について、さらにはこれからの建築界の動向や社会の変化などについて、様々な事例を交えながら具体的に講じていただいています。

学部学科創設 51 年目の今年度は、佐藤総合計画の笠井隆司様、竹中工務店の栗飯原功一様、国土交通省の中野美智子様の 3 名の方々にご講義をいただきました。それぞれの講義内容は大学の一般の授業では得ることのできない貴重なものであり、特に建築の職能領域の多様性や人生の針路などについて、大先輩たちから直接知る機会として、フレッシュな学生たちにとって大変刺激的なものとなっているようです。

## 組織設計事務所の働き方

講師 笠井 隆司 氏（佐藤総合計画）

ご自身の学生生活から出発し、自身の手がけた建築作品を豊富な図版で解説され、組織設計事務所における建築家としての道筋を示していただいた。



国内外で数多くの作品を設計された笠井氏が意匠設計系のキャリアを身近な体験を交えながら講義される姿に、学生たちは大いに刺激を受けたようで、真摯にメモを取りつつ話を聴いていた様子が印象的であった。

質疑の時間のみならず、講義終了後に数多くの学生が集まり、質問が途絶えなかった。

執筆者：片桐悠自 助教

### 笠井 隆司 氏 略歴

- 1977 年 東京理科大学理工学部建築学科武田研究室卒業
- 1980 年 榊門建築事務所 勤務
- 1984 年 榊佐藤総合計画 入社
- 1985 年 富山建築賞（富山県勤労者総合福祉センター）
- 1991 年 全建賞（亀岡市庁舎）現在に在る

**1級建築士試験 No.1 全国 ストレート合格者占有率 合格者占有率**

平成29年度 1級建築士 設計製図試験

全国 ストレート合格者占有率 **70.7%** (平成29年度 学科別設計製図)

全国ストレート合格者 1,564名中  
当学院当年度受講生 1,105名  
<平成29年12月21日現在>

平成30年度 全国ストレート合格者全員を **100%** ストレート合格者占有率

目標 総合資格学院現役受講生で!

東京理科大学 平成29年度 卒業生合格者108名中当学院当年度受講生70名 合格者占有率 **64.8%**

\*全国合格者数および卒業学校別合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づきます。  
\*総合資格学院の合格実績には、模範試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。

学院長：岸 隆司

## 総合資格学院

全国約90拠点

柏校 TEL.04-7168-9111

柏市中央町1-1  
柏セントラルプラザ  
業務棟 5F

総合資格 検索 Facebook「総合資格 fb」で検索!

スクールサイト [www.shikaku.co.jp](http://www.shikaku.co.jp)

コーポレートサイト [www.sogoshikaku.co.jp](http://www.sogoshikaku.co.jp)

法定講習 実施中

一級・二級・木造建築士定期講習 / 管理建築士講習 / 第一種電気工事士定期講習 / 監理技術者講習 / 宅建登録講習 / 宅建登録実務講習

開講 1級・2級 建築士/建築施工管理/土木施工管理/管工事施工管理/構造・設備設計1級  
講座 建築士/宅建士/インテリアコーディネーター/建築設備士/賃貸不動産経営管理士



## “想いをかたちに” する仕事

講師 栗飯原 功一 氏 (竹中工務店)

本学建築学科を卒業後、いわゆる現場監督として、現場の第一線で施工管理に従事してきた経験を基に、自分の物差し感覚を見つけることの重要性や建物を建てる際の工夫、さらには自分の仕事がどのように社会貢献できるかを、学生に分かりやすく講義していただいた。実演を交えた講義は学生の関心を集め、講義後の質問も活発であった。 執筆者：松田頼征 助教



栗飯原氏の略歴は P02 に掲載



## 国家公務員としての行政業務

講師 中野 美智子 氏  
国土交通省 大臣官房官庁営繕部  
営繕環境対策室 企画専門官

国家公務員として 26 年間の勤務で経験してきたこと、感じられたことを、学生たちにもわかりやすく、熱心にご講義いただいた。

まず、国家公務員の責務等について説明をいただいた。国土交通省の営繕部の業務としては、建築の整備は勿論のこと建設の指導監督や、建設業全体の振興に対する取り組みなども行っており、利便性向上に向けたまちづくりの具現化を図っているとのこと説明をいただいた。また業務を行っていた期間としては短いものの、出向先として訪れた衆議院や財務省の業務内容についてもお話しいただいた。全体の講義を通して、特に「建築とはただ建物を造るだけでなく、歴史の一部を創る職業である」という言葉が印象的であった。

執筆者：梅松太志 (井上研修士 2 年)



### 中野 美智子 氏 略歴

1990 年 3 月 東京理科大学理工学部建築学科  
(上原 孝雄 研究室) 卒業  
1992 年 3 月 東京理科大学理工学研究科建築学専攻修士課程  
(堀川 勉 研究室) 修了  
1992 年 4 月 国土交通省 (当時 建設省) 入省  
2018 年 5 月 (現在) 同 大臣官房官庁営繕部  
営繕環境対策室 所属 (2017 年 4 月～)

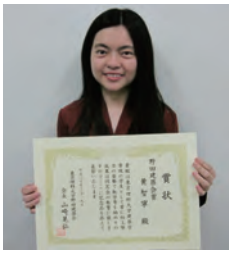


人をつなぐ、街を結ぶ、未来へ延びる。

 鉄建建設株式会社  
TEKKEN

本社：〒101-8366  
東京都千代田区神田三崎町二丁目 5 番 3 号  
TEL 03-3221-2152 (代表)

# 2017年度 NAA 賞紹介



**受賞者：黄智寧（ファン ツーニンエリザ）**  
**学部 4 年生（2018 年 3 月卒業、井上研究室）**  
**研究テーマ：パッシブ手法を導入した集合住宅に関する研究**  
 ～高断熱住戸の日射遮蔽による冷暖房負荷削減及び快適性向上の検討～

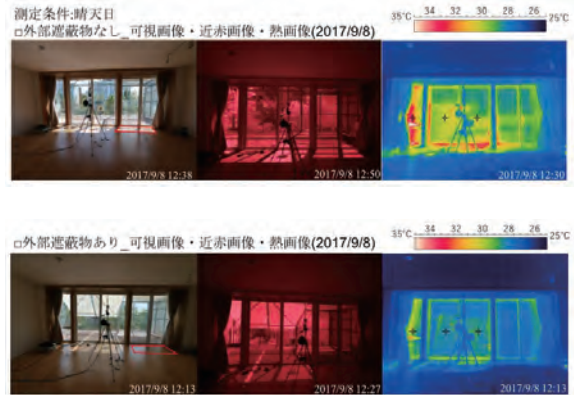
## 受賞理由

ファン（ツーニンエリザ）さんは、マレーシアからの留学生で、2014 年 4 月に本学理工学部建築学科に入学した。慣れない異国の環境の下で、4 つ目の言語（マレーシア語、中国語、英語に次ぐ日本語）での勉学にもかかわらず極めて優秀な成績を収めた。卒業研究では「パッシブ手法を導入した集合住宅に関する研究」で母国の自然環境を意識した視点も加えて卒業論文をまとめ、立派に質疑応答を行った。

ファンさんの努力と研究に対する熱意に対し NAA 賞を授与する。

## 研究概要

近年、住宅分野において省エネルギー基準（省エネ基準）適合義務化に向けた取り組みが盛んとなっている。また、日本の省エネ基準で求められる外皮性能は決して高いものではなく、更なる高断熱化への動きも高まっている。一方、断熱強化をするほど暖房負荷が削減できるものの、夏期・中間期にはオーバーヒートの可能性が高くなることが懸念され、適切な日射制御の検討が必要となる。本卒業研究では、多様なパッシブデザインを設計方針としたパッシブタウン黒部モデルを対象とし、夏期の日射遮蔽と冬期の日射取得効果を実測にて評価し、またシミュレーションにて適切な日射制御を行った際の冷暖房負荷削減及び快適性向上効果を示した。



## 受賞者コメント

今回、NAA 賞をいただくことができ嬉しく思っています。研究室での 1 年間、ご指導・ご支援いただいた先生方、ご協力いただいた企業の皆様、研究室の皆様に、心より感謝いたします。5 年間の日本での留学生活はあっという間に過ぎました。この 5 年間は長いようで短い時間でありましたが、日本やその文化について学ぶ中で、いろんな人と出会い、様々なことを経験し、数え切れないほど多くのことを学ぶことができ、これからの長い人生にとって素晴らしい経験であったと思っています。今後も日本での留学経験を活かして人生を豊かに送りたいと思います。



**受賞者：丹治遥香（たんじ はるか）※写真右**  
**受賞者：鶴巻瑛（つるまき あき）※写真左**  
**学部 4 年生（2018 年 3 月卒業、垣野研究室）**  
**研究テーマ：児童の活動様態からみた小規模学校における学習空間の特性**  
 ～フィンランドと日本の事例を対象として～

## 受賞理由

丹治遥香さん、鶴巻瑛さんは、現在日本で課題視されている「過疎地での学校の統廃合」について着目し、「過疎地の小規模学校には、きめ細かな指導など独自の長所があるが、これらは正確に捉えられ、建築の設計に活かされていないのではないか？」という問題意識をもった。そこで、日本および小規模教育先進国であるフィンランドにある人口数千人に満たない地域まで足を運び、合計 8 つの学校において、教室空間がどのように使われているか詳細に調査を行った。日本の過疎地のみならず、フィンランドにおける調査記録自体、世界的にも貴重な設計資料となり得ることは言うまでも無い。しかしそれに加え、先進国で到来している少子化時代において、小規模な学校の学習空間の計画指針を提言した点は秀逸であり、二人の根気と熱意の賜といえる。以上の業績をたたえ、NAA 賞を授与する。

## 研究概要

近年日本では少子化に伴う学校の統廃合が次々に起こっている。小規模学校にはきめ細かな指導など独自の長所があるが、それらが正確に捉えられていない現状に問題意識をもった。そこで日本および小規模教育先進国フィンランドの 8 つの学校において調査を行い、小規模小学校ならではの教育的、建築的長所・利点を明らかにした。また、それらをもとに少子化時代に対応した学習空間の計画指針を示した。



## 受賞者コメント（丹治遥香）

この度は NAA 賞をいただくことができ大変嬉しく思います。このような賞をいただくことができたのもひとえにご指導くださった先生方、調査を受け入れてくださった小学校の皆様、調査を手伝ってくださった研究室の皆さんのおかげであり心より感謝いたします。現在日本で課題視されている「過疎地での学校の統廃合」に着目し、小規模学校存続の役に立つような研究がしたいと思いました。調査は各学校二日間、登校から下校まで子どもたちの様子を記録し、先生方へ聞き取り調査を行うことで、小規模学校独自の異学年間交流、きめ細かな指導、広い学習スペースの有効活用など多くの長所・利点を見つけることができました。また、小規模な学校には子どもにとってより自由で柔軟な学習空間の可能性を感じました。自分自身は大規模な小学校に通っていたので、小さな集団の中で自主的に活動する子どもたちの様子はとても新鮮で貴重な体験をすることが



できました。また、日本に加えて海外での調査も経験し、異なる文化の中で様々な価値観を学ぶことができました。今後も世界に視野を広げ研究に励んでいきたいと思ひます。ありがとうございました。

### 受賞者コメント (鶴巻瑛)

この度は、栄えあるNAA賞を受賞し、大変ありがたく思っております。実測調査中には、ある程度仮説を立ててから行っていたものの、どのような結論を導き出せるのか、先が見えない状態でした。調査結果を大学に持ち帰ってから資料作成など試行錯誤の繰り返しでした。数ある小規模学校を一つにまとめることは粗雑ではありますが、その共通する建築的な良点何かしらあるはずだという信念の下、丹治さんと先生と討論を重

ね、論文を仕上げました。そのような作業の中で次第に自身の小規模学校に対する考えが変わっていったことが印象的です。小規模学校は”特別な存在ではなく、当然あり得る学校である”ということです。また現場でしかわからない良点が無数にあるということです。調査校では研究に協力して下さる先生方ばかりでした。関係する方々に感謝するとともに、この論文が小規模学校存続に役立つことを祈ります。



NAA賞の商品  
白山陶器のカップ&ソーサー、  
マグ、ミルクマグ

## 2017年度 理工学部建築学科・理工学研究科建築学専攻 各賞受賞者リスト

### 【理工学部建築学科】

卒業論文賞 (一般コース)	最優秀	岩岡研	稲角 樹 伊藤 昌志	山田守自邸の茶室における架構部材と意匠材の取合について
	最優秀	伊藤研	鈴木 由貴	市民による未利用地活用の手法 ～カシニワ制度・地域の庭の形成プロセスを通して～
	優 秀	山名研	大澤 真生子	沖縄の近現代建築の特性に関する研究 ～建築専門誌における設計者の言説に見られる批判的地域主義の分析を通して～
卒業論文賞 (通年コース)	最優秀	垣野研	小林 暉 高久 雄登	震災時における小公園の活用法に関する研究 ～都内の震災復興52小公園を対象として～
	最優秀	永野研	貴堂 峻至	2016熊本地震時における地表断層近傍記録の再現と地震動の空間変動及び浅部すべり破壊の影響
	優 秀	大宮研	高橋 由里 福留 凜子	群衆歩行性状に関する実験的研究 ～低速度歩行者を混在させた群衆流～
	優 秀	大宮研	川島 恵一 野路 諒彦	全館避難性状に関する実験的研究 ～歩行者単独および歩行者と消防隊の交錯を想定した階段避難実験～
	優 秀	北村研	佐野 航	文献調査に基づく免震建物モデルの長周期地震動による免震部材の性能変動を考慮した応答性状
	優 秀	永野研	高橋 和久	2次構造物の地震時応答評価に用いるCQC係数に関する研究
卒業設計賞	最優秀	安原研	鈴木 麻夕	出会いの犬築
	優 秀	安原研	今埜 歩	街並玄関孔
	優 秀	伊藤研	鈴木 由貴	まちの〇〇寺 白金台の子供・犬寺
	優 秀	垣野研	山名 美月	flow 月と海のリズムと呼応する助産院
学業優秀賞	1位	北村研	佐野 航	
	2位	吉澤研	岡本 俊英	
	3位	吉澤研	平間 隆玄	

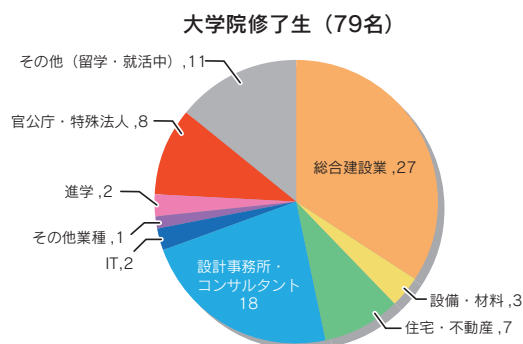
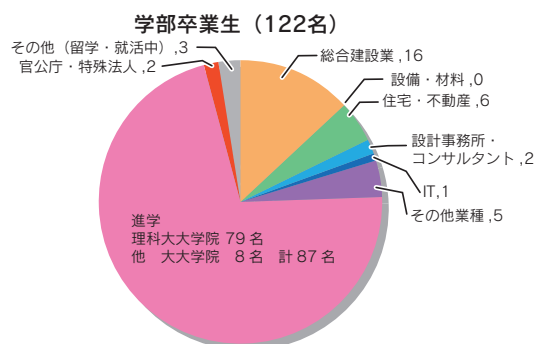
### 【理工学研究科建築学専攻】

修士設計賞	最優秀作品	安原研	山口 薫平	島業の建築 ～興居島・移住促進施設による新たな公共の提案～
	優秀作品	山名研	中村 遥	小布施祇園祭復興計画 ～新しいハレとケの律動を生み出す装置としての建築～
	優秀作品	岩岡研	田中 愛	更新される街並 ～斜面住宅地における建替手法の提案～
修士研究奨励賞	最優秀賞	伊藤研	柴田 史奈	創造産業の立地と入居建物の特性 - ニューヨーク市マンハッタン区を対象として -
	優秀賞	北村研	白田 雄作	単独地震の応答に基づく三連動地震に対する超高層建物の応答推定手法
	優秀賞	永野研	田中 亮磨	面材耐力壁の繰り返し劣化挙動の把握と損傷を受けた木質建物の地震応答

### 【共 通】

NAA賞	井上研	黄 智寧	P08参照
	垣野研	丹治 遥香 鶴巻 瑛	同上

## 2017年度 理工学部建築学科・理工学研究科建築学専攻 各就職先リスト



## 新任講師のご挨拶



宮津 裕次 (みやづ ゆうじ)

1983年 福岡県生まれ  
2005年 早稲田大学理工学部建築学科卒業  
2010年 早稲田大学創造理工学研究所単位取得退学  
2009年～2012年  
早稲田大学理工学部建築学科助手  
2012年～2014年  
早稲田大学理工学研究所研究院講師  
2014年～2018年  
広島大学工学研究科建築学専攻助教  
2018年～ 東京理科大学理工学部建築学科講師

2018年4月に講師として着任いたしました。自己紹介を兼ねてご挨拶をさせていただきます。私は福岡県北九州市の生まれで、高校生までを鉄の町・八幡で過ごし、その後、早稲田大学建築学科に進学しました。大学では曾田五月也先生の研究室に所属し、建築構造の研究に取り組みました。2014年からは広島大学に勤め、構造最適化やシステム同定に関する研究を行いました。

研究のメインテーマは、建築物の耐震性能の向上です。鉄の町で育ちましたが、木造建築物を主な対象として、制振・免震技術の開発、建築物の振動特性評価、構造最適化などの研究に取り組んでいます。本文執筆中の現在(7月)は、8月に予定されている大型の振動台実験の実施に向けて、研究室1期生の13名の学生の皆さんとともに準備を進めているところです。講義は、鉄骨構造、構造設計、設計製図などを担当しています。今後は、木質構造の講義も行う予定です。学生に講義をする一方で、実務でご活躍されている非常勤の先生方からは私が教わることばかりで日々勉強です。

理科大に相応しい教員を目指して、研究・教育に取り組んでいく所存です。今後ともよろしく願いいたします。



熊本地震の調査にて

## 新任助教のご挨拶



王 欣 (おう きん)

2004年 大連交通大学 交通運輸工程学院建築学科卒業  
2007年 東南大学大学院  
固体力学専攻修士課程修了、修士(工学)  
2011年 愛知工業大学大学院 工学研究科生産  
・建設工学専攻博士課程修了、博士(工学)  
2012年 東北大学災害科学国際研究所 助教  
2018年 東京理科大学永野研究室 助教(現職)

2018年4月から構造系の助教に着任した王欣です。中国の東北地方にある吉林省延辺朝鮮民族自治区出身で、異民族混居の環境で育った私は、小さい頃から多様な文化や飲食・生活習慣、言語が共存する環境が好きで「好きな異文化を体験しよう」という単純な考えで来日しましたが、幸運で豊かな人生を体験いたしました。

来日して建築構造専門の私は初めて地震の発生・地震波の拡散などの知識に触れ、2008年中国四川地震における建物被害要因分析を博士学位論文のテーマとして研究を始めました。その後、2011年東北地方太平洋沖地震、2014年中国雲南省昭通地震、2018年台湾花蓮地震における建物被害原因を、建築構造、地震学、地盤工学分野の知識を融合し、構造の脆弱性、強震動特性および地盤の増幅特性の面で総合的に分析しました。建物の振動を地震波が建物の基礎と屋上の間で重複反射し、層の境界で反射、透過、干渉が生じる視点から見直して、建物の被害を評価する手法を開発しました。建物や地震は様々な特徴がありますが、共通点を把握し、他分野の研究手法や技術を融合して、実問題を解決することは自分の研究理念です。今後の研究・教育活動では、この理念を持って努力したいと思っております。OB・OGの皆様方からご指導ご鞭撻をお願いいたします。



2014年中国雲南省昭通地震現場で小学生たちにスマートデバイスで地震計測を説明する様子

五感を開放する住まいへ。

**Brillia**  
NEW LUXURY RESIDENCE



東京建物



## 退任助教のご挨拶



鈴木 賢人

2018年3月に理科大を退職し、現在は、(国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所に勤めています。つくばの森の中で、理科大での3年間の思い出を振り返ると、着任したのがつい最近のように感じつつも、色々あったなあ、と感慨にふけてしまいます。社会人1年生として過ごした1年目。熊本地震が起きてしまった2年目。野田建築50周年の3年目。

気づけばこの間に、30代になりました(複雑)。既婚者になりました(幸!)。学生に少し優しくなりました(?)。仕事を少しだけ覚えました(遅!)。学外の仕事が年々増えました(ありがたい)。沢山のひとと出会いました(嬉♪)。少しのひととお別れしました(寂)。いろんな場所に行きました(楽♪)。いろんなことを経験しました(楽しかったり、そうでなかったり)。最後まで学生気分が抜けませんでした(まっ、いっか)。などなど…

つまりは、理科大での3年間はとても充実していました! これもひとえに、先生方、OB・OGの皆様、関係者の皆様のご指導の賜物と、心より感謝申し上げます。(あと、愉快・痛快な学生たちのおかげかも? ありがとう!) では、またどこかでお会いしましょう!



木造耐力壁 JP



研究室飲み会

## 寄附金について

当会は皆様の会費とご寄付により運営しております。創立時および直近のご寄付は下記の通りです。

単位：円

創立時	1,000,000	上原孝雄(名誉教授)	3,000	大竹一彦
			3,000	清水秀哲
2016年度	96,003	上原研OB会	3,000	松尾剛史
	12,000	氏名不詳	3,000	北原康央
	10,000	山崎晃弘	3,000	兼田好彦
	10,000	堀部加壽春	3,000	宮丸吉郎
	3,000	八田直人	3,000	氏名不詳
	2,000	菊地利武	640	上原研OB会
年度計	133,003		年度計	151,640
2017年度	50,000	山崎晃弘(累計60,000)	2018年度	46,575
	50,000	鈴木雅也	6月まで	20,000
	10,000	五十嵐洋也		10,000
	10,000	堀部加壽春(累計20,000)		10,000
	10,000	八田直人(累計13,000)		1,000
			小計	87,575
				50周年記念事業実行委員会より
				山崎晃弘(累計80,000)
				栗飯原功一
				八田直人(累計23,000)
				涌井栄治



## 【築理会総会懇親会と山名教授叙勲お祝い会】

山崎 晃弘 (1976 年卒上原研)

2018 年 5 月 26 日築理会 (工学部建築学科同窓会・会長大岩昭之・会員 7900 名) の総会～講演会 (石神一郎前理窓会会長) ～懇親会@理窓会倶楽部が開催され、続いて「山名善之教授フランス芸術文化勲章シュヴァリエ叙勲を祝う会」が行なわれました。

参加者は総会懇親会に築理会 48 名、野田建築会 4 名、教員 10 名の計 62 名で、お祝い会には藤嶋前学長はじめ、理工学部建築学科岩岡先生、永野先生、垣野先生も加わり、盛況に終わりました。

※前会長山崎晃弘は今年度から理窓会本部役員 (常務委員) になりました。



山名教授



懇親会



集合写真

### 【同期会のお知らせ】

#### 1989 年入学の皆様へ 同窓会開催のお知らせ

早いもので卒業してから 25 年が経ち、この度 '89 年入学者を対象とした同窓会を下記のとおり企画しております。幹事より各方面へ連絡しておりますが、お知らせをまだ受け取っていないという方は、[rikadai.ar.noda.douki1989@gmail.com](mailto:rikadai.ar.noda.douki1989@gmail.com) までご連絡をお願いいたします。(幹事有志: 伊藤、居林、遠藤、大濱、松山 (旧姓岡本)、菊池、佐久間、藤末)

□対象: '89 年入学者 □日時: 11 月 3 日 (土) 16 時～19 時 □会費: 8,000 円程度 □場所: 銀座

### 【訃報】

■野村設郎先生 (東京理科大学 名誉教授) は、病氣療養中の処、薬石効なく 6 月 10 日未明享年 78 歳で永眠されました。通夜及び葬儀告別式は過日、故人の意思、ご家族の意向にもとづき家族葬にて執り行われました。

■菊地利武氏 (1971 年卒野村研) 2018 年 2 月 6 日逝去。野田建築会の元会長 (第 3～4 期と第 6～7 期)

### 編集後記

今回の総会で野田建築会の会報部会長兼、副会長に任命された、とりやまと申します (いまだに、なんで私が、、、? と思っています)。これからは、どんどん若い人達にも会の活動に参加してもらい、会報もいっそう面白くしていきたいです。が、現状、執筆も編集も全て少人数のボランティアで行っておりますので、なかなかやりきれない部分も多いのです。そんなわけなので、どうぞ多少のことは大目に見て下さい。(とりやまあきこ 2003 年卒業 初見研究室)

2 年前より野田建築会の幹事になった大野芳俊です。今年度より会報部会でとりやまさんのお手伝いをしております。定例の幹部会も毎回遅刻しての出席ですが、少しでも貢献出来たらと思い参加しています。宜しくお願いします。

(大野芳俊 1988 年卒業 奥田研究室)

### 会費納入のお願い

NAA では会則により、2018 年度 (2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日) の普通会員年会費として 3,000 円を徴収しています。これらは会報の発行、OB と語る会の開催、見学会等の研修、NAA 賞の授与、NAA サイトの維持その他 NAA の活動に有効に活用されています。こうした NAA の運営に向け、同窓生の皆様のご理解とご協力をいただき、同封の振込用紙にて会費納入をお願いいたします。(お手数ですが、納入者確認のため、振込用紙には卒業年を必ずご記入ください)

※会費納入がない場合は、今号を最終発送とする場合があります。  
(注) 年度会費の二重払いを避けるため、ご不明の場合は右記 HP でお問合せください。

### 野田建築会会報 VOL.40 2018 AUTUMN

2018 年 10 月 1 日

編集: 会報部会 (とりやま あきこ / 大野 芳俊)

発行: 東京理科大学野田建築会

郵便振替 口座番号 00130-9-27644 東京理科大学野田建築会

お問合せおよびメルマガ登録はこちらから——

<http://www.rikadaikenchiku.com>



Facebook ページ

<https://www.facebook.com/nodakenchiku>

